

凡 例

一、福澤諭吉の口述を速記した矢野由次郎の翻訳原稿を青インクで、それを福澤が自ら加筆訂正した原稿を黒インクで印刷したものを底本とする。

一、右の底本の浄写本を「A」とする。

一、時事新報の掲載記事（明治三十一年七月一日～同三十二年二月十六日六十七回連載）を「B」とする。

一、時事新報社発行の『福翁自傳』初版本（明治三十二年六月十五日刊）を「C」とする。

一、大正版『福澤全集』第七卷（大正十五年二月二十日・國民圖書株式会社発行）を「D」とする。

一、昭和版『福澤諭吉全集』第七卷（昭和三十四年十二月一日・岩波書店発行）を「E」とする。

昭和版『福澤諭吉全集』第七卷（昭和四十五年四月十三日再版・岩波書店発行）を「E'」とする。

一、原稿の文字・振仮名・句読点などがA～Eにおいて異っている場合は、原稿のその部分に「＊」を付けて、その相違を頭註として示す。

一、人名や事項で特に説明を要すると思われるものは章ごとに「①、②……」のように番号をふり、見開きの奇数頁に簡単な説明を加えた。

一、別冊の『註釈編』に解説がある事項については、原稿の当該部分の末尾に「註1、註2……」を付して、各章ごとの註番号を示した。

一、巻末に参考のために人名・書名・地名の固有名詞索引と、福澤特有の宛字や言葉、方言等の語句索引を付けた。